

取り組んだ テーマ	『起立性調節障害による不登校支援』
----------------------	--------------------------

1 達成に向けた手立て

- ・各学校の該当生徒の数のピックアップ
- ・診察に至った背景と経緯
- ・本人の経過状況（家庭での様子）
- ・登校支援の方法
- ・SSWが起立性の病気を知る
- ・本人の興味・関心を一緒に見つける。本人は気付いていないもの。担任だけではなく、他の職員もポジティブな声かけ

2 取組の成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・診断された後、学校・医療・SSWの連携、養護教諭と連携し資料提供等のサポート、学校環境整備（登校方法等）、保護者へのケア ・自分から「行きたい」と思うような設定 ・診断をチャンスに変える声かけ「今、診断されて良かった」高校生の方が大変（登校日数が影響してくる） ・学校と本人と一緒に目標を立て、担任教諭とSSWが相談して、修学旅行を目標にして登校できるようになった。自分でアラームを使って起きている。 ・急に起きられなくなった生徒は、起立性調節障害と診断され自分自身がショックを受けていた。担任教諭・養護教諭・SSWが家庭訪問をして、本人に起立性調節障害についての情報提供をして不安を和らげた。学校として登校・定期試験等について合理的配慮をした。本人は定期試験受験に意欲があり、自分の体調が良ければ登校できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関が診断して終わりになってしまうことがある。その後の経過をフォローできる医療機関への紹介が必要になる。 ・長期休業後、状況が悪化しやすい。

3 次年度に向けて

- ・「起立性調節障害」の診断が出た場合、「心身一如」という側面からも本人を理解するような働きかけが必要であることを教職員と共有する必要がある。本人の気持ちが向くと、体も目覚めることがある。本人の好きなこと、したいことを教えてもらうことが大事である。
- ・「起立性調節障害」の診断が出ると不登校やむなしと立ち止まるのではなく、SSWとして多様なアプローチを提案し、本人の孤立を防ぐ取り組みを継続する必要がある。
- ・生活リズムを考えると夜間定時制高校進学も選択肢として提案できる。
- ・SSWとして本人の思いに共感・傾聴に努めたい。
- ・養護教諭と協働し、医療機関との連携・情報収集に努めたい。